

秋季関東高校野球

白鷗足利初

関東大会初優勝を飾り、会心の笑顔を見せる白鷗足利ナイン。茨城県ひたちなか市民球場



好機逃さず 桐生一に快勝

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
白鷗足利	1	0	0	2	2	0	0	0	1	6
桐生一	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3

(白) 長谷川、大下一小川(桐) 東宮、西山、翁長一小野田 ▽二塁打 中島(白) 速水、山田(桐)

第66回秋季関東地区高校野球大会最終日は31日、茨城県のひたちなか市民球場で決勝を行い、本県2位で22年ぶり2度目の出場を果たした白鷗足利が、桐生一(群馬2位)を6-3で下して初優勝を飾った。既に来春のセンバツ甲子園出場を確実なものとしており、「関東王者」の称号を得てセンバツに乗り込む。また関東地区代表として、11月16日から神宮球場で開かれる第44回明治神宮野球大会に出場する。県勢の優勝は2001年の宇工以来、12年ぶり10度目、足利市の高校が優勝したのは初めて。

◇ ◇

白鷗足利は、好機をことごとく得点に結び付ける勝負強さが光った。初回、周東貴人の中前打を足掛かりに1死満塁とし、小川真希の右前適時打で1点を先制。四回は相手投手の制球難に乗じて、2つの押し出し四球で労せずして2点を加えた。1点差とされた五回には1死二、三塁から中島健寿の中前適時打で2点を追加。最終回にも2死二塁から大川善弘の投内野安打が敵方を誘い、駄目押し1点を奪った。

前日まで3連投のエース比嘉新に代わって先発した長谷川慶太が4イニングを2失点でしのぐと、2番手の大下誠一郎も力強い投球で相手打線の反撃を七回の1点に抑え逃げ切った。

センバツ出場校の選考委員会は、来年1月24日に大阪市内で開催予定。白鷗足利のほか、関東大会4強の佐野日大も選出されることなどがほぼ確実となっている。

白鷗足利・藤田慎二監督の話 選手たちが持っている力以上のものを出してくれた。大会を通じて終盤まで粘り強く戦い、勝ち切る野球ができた。選手の精神的な成長が最大の収穫。

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号 〒320-8686

下野新聞社

電話 028-625-1111

郵便振替口座 00180-1-623433

©下野新聞社2013

読者室 028-625-1179

(受付 月~金・午前10時~午後6時)

編集局 028-625-1121

販売 028-625-1120 (販売)

事業局 028-625-1134 (専業・教育)

営業局 028-625-1133 (広告)

PC・スマホ・携帯でも

下野新聞 検索

下野新聞購読お申し込みは

0120-810081

電子号外

下野新聞購読お申し込みは
フリーダイヤル
0120-810081

携帯、スマホで栃木のニュースを!!



下野新聞 SOON 月額262円

下野新聞 検索